

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	平成29年度第1回姫路市環境審議会一般廃棄物処理基本計画委員会
2 開催日時	平成29年5月19日（金曜日）11時10分～12時20分
3 開催場所	姫路市防災センター3階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名 （敬称略）	（出席者）石井宏治、小島理沙、杉江他曾宏、西村正喜、花嶋温子、藤田美知枝 （欠席者）岩田稔恵、桐野太一、中川公恵、實角幸彦、三和秀輔 （事務局）美化部長、美化業務課3名、リサイクル推進課3名、委託業者3名
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人2名
6 議題又は案件及び結論等	1 説明 ・ 姫路市一般廃棄物処理基本計画の策定について ・ 姫路市のごみ処理・リサイクルの現状について 2 意見交換 ・ 基本計画策定に係るアンケートについて
7 会議の記録	詳細は別紙参照

1 審議事項

（1）説明

- ・姫路市一般廃棄物処理基本計画の策定について
- ・姫路市のごみ処理・リサイクルの現状について

（2）意見交換

- ・基本計画策定に係るアンケートについて

2 会議の記録

（1）説明

「資料1 姫路市一般廃棄物処理基本計画の策定について」事務局説明

「資料2 姫路市のごみ処理・リサイクルの現状について」事務局説明

質疑応答

委員：本市の資源化率が国の平均値より下回っているのは何故か。

事務局：数値は行政が回収・処理した数値を基に算出されたものであり、民間業者による店頭回収や古紙回収ボックスにおける資源物の回収量が加味されていないため、必ずしも実質的に平均値を下回っているかどうかわからない。特に古紙回収ボックスについては、正確な数値の把握は困難なもの、設置数も多く、市民の利用も活発な地域であり、市が算出する資源化率の減に大きく影響していると思われる。

委員：資源化されている品目の中にスラグがあるが、有効利用されているのか。

事務局：エコパークあぼしは直接溶融方式を採用しており、発生するスラグが高品質なため、運営事業者が引き取った後、別の業者に売却しており、全量コンクリートやアスファルト用の骨材等、建築資材に利用されている。

委員：スラグは、エコパークあぼしの運営事業者が引き取っているのか。

事務局：運営事業者が全量引き取っており、引き取り価格は契約上10円/tとなっている。

委員：市が保有する最終処分場において、有害物質の流出等の懸念はないか。

事務局：最終処分場は遮水シートにより外部と完全に遮断しており、雨水等により発生する浸出水も処理施設において適切に処理している。また、埋め立て終了後も安全な状態が確認できるまで管理を継続するため、有害物質流出等の懸念はない。

委員：合併後も合併前の処理施設の利用を継続しているが、分別品目の統合や処理施設の集約化は図らないのか。

事務局：合併した当初から経済性等も踏まえて協議しており、実際に家島美化センターの焼却炉は停止しエコパークあぼしへ処理を集約している。その他にも概ね3年後に、にしはりま環境事務組合からの脱退、概ね5年後に、くれさかクリーンセンターの焼却炉停止を計画しており継続して施設の集約に関する協議を進める。

委員：合併により処理施設が多くなっているが、ごみの処理費が割高になっているのではないのか。

事務局：実態としては、どの施設で処理を行っても単価には大きな違いはない。ただ、旧市域で所有している施設の余力もあることから、事務組合からの脱退や施設の停止に向けた協議は進めている。

(2) 意見交換

「資料3 市民及び事業者アンケート方針」事務局説明

質疑応答

委員：有料化については、現状の処理コストに関する情報を加えた上で、質問すべきではないか。環境問題についても、関心の有無だけでなく、具体的な取り組み内容を聞き取るべきではないか。全体としてアンケート内容が雑駁であり、本アンケート結果から市が何を想定しているのか読み取りにくいのではないか。

事務局：市民の既存施策等に関する認知度、参加度、施策に対する意見等や環境問題への意識レベルや関心のある事項の抽出など、現状把握を目的としている。設問内容については本委員会での意見を踏まえ今後詰めていく予定である。有料化についても、設問の仕方を工夫していきたい。

委員：事業者にはアンケートではなく、数社ずつにでもヒアリングを実施する方が有益ではないか。

事務局：現状ヒアリングの実施は考えていないが、アンケートの補足が必要であれば検討する。

委員：情報提供を希望する事項を市民に質問するのであれば、選択肢にごみ処理コストの問題を追加すべきではないか。

事務局：ご提案のとおり当該内容を追加する。

委員：市の保有する最終処分場及びフェニックスの残余年数はどのくらいか。

事務局：市の保有する最終処分場の残余年数は15～20年程度を想定している。フェニックスについては現在第3期計画の策定準備を進めているため詳細は不明だが、本事業に参画している自治体は永続的な処分を希望しているものと考えられる。

委員：ごみ処理費用のほか、ごみの発生量等に関する情報も加えた上で質問することで、より有益なアンケートになるのではないかと。

事務局：アンケートに回答する方が、どういう意思を持って答えられたかが読み取れるように工夫する。

委員：市民アンケートの対象者が市政モニターの100人では、サンプルの不足や意見の偏りが懸念されるのではないかと。

事務局：市民アンケートについては、市政モニター制度を利用することを想定しているが、現在市政モニターの登録者は100人となっており、増やすことは難しいと思われる。ただ、今後、本計画に関わらず市政モニターによる他の調査も考えられるため、登録者の増員について担当部署に要望したい。

委員：計画策定においては、アンケートは必ずしも実施しなければならないものではないと思うのだが。

事務局：こういう機会を捉えて、施策の周知度や認知度、環境意識等の調査を通じて、市民の方の声を聞きたいと思っている。

委員：市民アンケートの対象者については、少し工夫するなどの検討をお願いしたい。

委員長：本日委員から出された意見を今後の一般廃棄物処理基本計画策定の参考としていただきたい。また、審議会で挙げた生活排水処理と瀬戸内海環境保全特別措置法との関係についても次回の議事に加えていただきたい。